

米国におけるラットリソースの現状について

庫本 高志（京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設）

平成 14 年 10 月 21 日より 11 月 30 日までの 6 週間、文部科学省在外研究員として、米国におけるラットリソースの研究開発動向を調査してきたので、それについて報告する。主な訪問先は以下の通りである。

- ◆ Medical College of Wisconsin, Bioinformatics Research Center（ウィスコンシン州）
 - ・ 世界で最も充実しているラットゲノム関連のデータベース Rat Genome Database を開発、管理、運営している。
 - ・ コンソミック系統を整備、その生理学的特性を遺伝子レベルで明らかにする PhyGen プロジェクトをサポートし、コンソミック系統の遺伝的、生理学的データの収集、解析、注釈付けを行なっている。
- ◆ National Institute of Health（メリーランド州）
 - ・ マウス、ラット、モルモット、ウサギなどの小動物のリソースである NIH Animal Genetic Resource を管理、運営している。
- ◆ University of Missouri-Columbia（ミズーリ州）
 - ・ 2001 年に設立されたラット専門のリソース Rat Resource and Research Center の中核機関。
- ◆ Human Genome Sequencing Center at Baylor College of Medicine（テキサス州）
 - ・ ラットゲノムの全塩基配列の決定を目指すラットゲノムプロジェクトの中核機関。

我が国でも、平成 14 年度より、京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設を中核機関として、ナショナルバイオリソースセンター(ラット)が開設された。今回の派遣で得られた情報を活用し、我が国のラットリソースの整備に貢献したい。